

安瀨聖司氏に聞く

復興道半ば 支援継続



被災地支援の継続を強調する安瀨氏

アクサ生命保険の安瀨聖司社長兼CEOは八日、福島民報社のインタビューに応じた。「復興は道半ばであり、地域に寄り添い、支援を継続する」と述べた。また、健康づくりを推進する「健康経営」の一環として独自の産業医プログラムの普及に力を入れる方針を示した。

「コロナ禍で昨年はオンラインだったため二年ぶりの訪問となった。福島、郡山の両商工会議所役員と懇談し、今の課題は何か、私たちにできることは何かを伺った。日本ユニスコ協会と連携した奨学金や、減災教育プログラムを今年も継続する方針を伝えた」

「健康経営」で力を入れるポイントは、「感染症の拡大で就労や働き方への不安が広がり、メンタルヘルスに対するケアが重要となっている。従業員の健康を守るため、産業医がオンラインで対応するプログラムを紹介している。四月に県商工会議所連合会と共催でセミナーを開く。経営者や社員の意識を高めたい」

「ソーシャルインクルージョン、『あたりまえに混ざりあう社会』の実現を目的にしている。福島県にはチームがないため重点地域に選んだ。商工会議所や自治体と呼び掛け、競技の理解を促し、選手や指導者の発掘に取り組みたい」

安瀨氏は八日、郡山商工会議所の滝田康雄会頭、福島商工会議所の菅野日出喜副会頭らと意見交換した。